

葉月「ふう～～っ…それでは…下半身マッサージの…最後のシメを…行わせていただきますね…ふう～～っ…はぁ～～っ…ここは…すこしだけ…被虐属性の方向けになりますので…ご注意くださいね…ふう～～っ…」

美冬「んふう～～っ…最後に下半身キワキワの箇所を…施術いたしますわ…」

葉月「はぁ～～っ…ここは…とてもとても…きわどいところになりますので…ご注意ください…ふう～～っ…では…仰向けになってくださいね…んふう～～っ…れろお～～っ…」

美冬「んふう～～っ…仰向けのまま…ふう～～っ…両足を開いてくださいね…んふう～～っ…あらぁ…とっても恥ずかしい格好ですございますね…れろお～～っ…ふう～～っ…」

葉月「ふう～～っ…大事なところを丸出しにして…はぁ～～っ…ヒキガエルみたいな…格好ですわね…うふふっ…れろお～～んっ…」

美冬「ふう～～っ…その紙パンツは…なんだか…役に立っていませんわ…れろお～～っ…だって…貴方様のものが…硬くなっていて…丸見えなんですもの…ふう～～っ…」

葉月「んふう～～っ…それに…ぶら下がっている…袋の方も…ここから…よく見えますの…れろお～～っ…んはぁ～～っ…」

美冬「それでは…竿の周りを…指圧していきますねえ…んふう～～っ…それにしても…これからのことを…期待している様子が…その膨らんできたモノから…よくわかりますわ…れろお～～っ…はぁ～～っ…いやらしいお方ですわね…ふう～～っ…」

葉月「んふう～～っ…私は…足の付け根から…袋の周りにかけて…んふう～～っ…ほぐして差し上げますの…んはぁ～～っ…こちらも…楽しみにしてくださいね…」

美冬「ふう～～っ…れろお～～っ…こうやって…最初は…触れるか…触れないか程度に…竿の周りを…んふ～～っ…こそばゆくしていきますの…れろお～～っ…はぁ～～っ…もっと…さわって欲しいのを…じらすようにしていきますわ…れろお～～っ…」

葉月「んふう～～っ…こちらも…サワサワ～～って…付け根のあたりから…玉袋の周りを…ふう～～っ…はぁ～～っ…指の先の先で…んはぁ～～っ…それに…肛門の周りまで…ふう～～っ…全部丸見えで…んふう～～っ…恥ずかしくないですか…？」

美冬「ふう～～っ…れろお～～っ…なんだか…固くなっておりますよ…貴方様の…お・ち・ん・ち・ん…はぁ～～っ…ふう～～っ…私としたことが…いやらしい言葉を…使ってしまったわ…」

葉月「んはぁ～～っ…はぁ～～っ…こうやって…お尻の穴のまわりまで…責められるのは…恥ずかしいですわよね…んはぁ～～っ…れろお～～っ…ふう～～っ…お尻のあたりを…触るたびに…オチンポが…とても…ビクビクしております…んふう～～っ…」

美冬「んふう～～っ…おちんちんそのものは…触っておりませんが…んふう～～っ…ビクンビクンって…反応してしまっ…ふう～～…れろお～～っ…我慢できないのかしら…んはぁ～～っ…」

葉月「ふう～～っ…私は…貴方様の…大事な袋を…爪先でえ…ゆつくりと…ふう～～っ
…こすってあげますの…んふう～～っ…んはぁ～～っ…気持ちいいですかぁ…?き・ん・
た・まぁ～～はぁ～～っ…」

美冬「はぁ～～っ…れろお～～っ…私が…たつぷりと…じらして…ふう～～っ…最後には
…どっぴゅんてえ…かわいい…ち・ん・ぽを…天国に…行かせてあげますので…我慢し
てくださいまし…れろお～～っ…」

葉月「ほらぁ…玉袋のしわに残った…垢もきれいに…いただきますわねえ…れろお～～っ…
んはぁ～～っ…すっきりい…気持ちいいですわよねえ…レロお～～っ…ふう～～っ…」

美冬「んふう～～っ…おちんちん…とっても苦しそう…私も…心苦しいですが…れろお～
～っ…でもまだ…おさわりしては…いけませんの…れろお～～っ…もちろんそれに…自
分で握ったりしても…ダメですわ…んはぁ～～っ…」

葉月「はぁ～～っ…もっと気持ちよくなりたいのに…かわいそうですわね…んはぁ～～っ
…私は…貴方様の…金玉袋も…お尻の穴も…れろお～～っ…気持ちよくしてあげます
わぁ～～っ…」

美冬「ふう～～っ…あらぁ～っ…竿には…触っておりませんのにい…先の方から…液体
が…垂れてきて…おりますわ…れろお～～っ…ふう～～っ…はぁ～～っ…仕方ありませ
んね…周りだけ…しっかりと…さすってあげますわ…」

葉月「んふう～～っ…金玉とお…肛門…気持ちいいのですのお…？…はぁ～～っ…玉のしわを…伸ばしてモミモミってえ…んふう～～っ…それに…お尻の穴の…奥にはぁ…んふう～～っ…爪先でえ…れろお～～っ…」

美冬「ふう～～っ…一番大事な…竿だけは…じらしプレイですの…チンポ…触って欲しいですかぁ…れろお～～っ…チンポを…しごいてほしいのですか…？…お答えにならなくても…んふう～～っ…チンポの先の…我慢汁で…すべてわかりますわ…」

葉月「んふう～～っ…すごいですわぁ…金玉や…肛門を触るとお…れろお～～っ…オチンポがぁ…自然に反応してしまっってえ…んふう～～っ…もう…全身ビクンビクンになって…ふう～～っ…オチンポ…気持ちよくしてほしいって…言ってらっしゃるのお…」

美冬「仕方ありませんねぇ…直接は…おさわりできませんがぁ…んはぁ～～っ…私の吐息を…直接吹きかけながらぁ…ふう～～っ…いやらしいささやきを…して差し上げますわ…はぁ～～っ…貴方様の…たくましい…オチンポ…チンポ…んふう～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…れろお～～っ…貴方様の…きんたまぁ…ふう～～っ…れろお～～っ…好きですわ…私もお…金玉と…肛門にい…吐息を吹きかけますの…ふう～～っ…はぁ～～っ…玉袋から…全部出して…スッキリしてくださいませ…んふう～～っ…」

美冬「はぁ～～っ…私が…触れないぎりぎりで…オチンポ…なでなでしますう…んふう～～っ…れろお～～っ…殿方の…膨張した…チンポの熱…感じますのお…んふう～～っ…私…本当は…チンポ大好きですの…んふう～～っ…んふう～～っ…チンポからぁ…熱いのが…出るところ…見せてくださいまし…れろお～～っ…んはぁ～～っ…」

葉月「んはぁ～～っ…ここまで…おちんちんのニオイ…んふう～～っ…漂ってきますう…
いやらしいお方…はぁ～～っ…私はぁ…マッサージでえ…チンポを勃起させちゃうような
…スケベな人お…大好きですわ…んふう～～っ…ふう～～っ…あつい…オチンポから…
精液だしてえ…んはぁ～～っ…」

美冬「ふう～～っ…れろお～～っ…私は…しごいておりませんのにい…自動でえ…精液
を…発射してしまうような…変態な殿方…んはぁ～～っ…んふう～～っ…ドスケベじらし
プレイでえ…ザーメン…出してしまわれるのねえ…れろお～～っ…」

葉月「ほらぁ…私たちにい…殿方の…恥ずかしい射精姿…見せてくださいまし…はぁ
～～っ…その姿で…心も体もお…スツキリとお…リラックスできるんですわよね…んはぁ
～～っ…れろれろお～～っ…」

美冬「ふう～～っ…れろお～～っ…早く…私たちにい…チンポから…精液が出る…恥ず
かしい殿方の姿…れろお～～っ…見せてくださいまし…」

葉月「あ～～んっ…チンポ汁…出ちゃいそうですわ～…レロレロレロ～～っ…チンポから
…精液っ…出しちゃいますのお～～っ…れろお～～っ…んはぁ～～っ…」

美冬「はぁっ～～っ…ほらぁ…熱い吐息でえ…発射してえ～～んっ…ザーメンっ…ザーメ
ンっ…チンポじるう…れろお～～っ…んはぁ～～っ…」

葉月「はぁ～～っ…とうとう…たつぷりと…だしていただきましたわ…きつと…一滴残ら
ず…発射されたと思われますわ…ふう～～っ…れろお～～っ…」

美冬「んふう～～っ…もう…袋の中も…からっぽに…なってしまわれたかも…れろお～
～っ…これで…下半身は…完璧に…すっきりなされたのでは…ないでしょうか…？」

葉月「特別サービスで…周りについた精液は…なめとらせていただきます…れろお～～
んっ…れろお～～っ…」

美冬「れろお～～っ…私もお…お手伝いいたしますわ…れろれろお～～んっ…はぁ～～
ん…おいしいですわ…新鮮な…抜きたて…精液…んはぁ～～っ…」

葉月「れろお～～っ…はぁ～～っ…下半身マッサージ…お疲れ様でございましたぁ…」

美冬「れろお～～っお疲れ様でございましたぁ…」